地域の安全を守ります ～消防団～

▲消防団員による一斉放水（総合公園）

空気が乾燥した毎日が続きます。こんな時ほど火事は起こりやすく、猪名川町では昨年9件の火災が発生しました。火災の時に駆けつけてくれるのが、消防本部からはもちろんですが各地域の消防団です。

今回は、消防団の活躍と先月9日に行われた出初式の紹介をします。

いながわ特派員報告

木下 美由紀

高橋 祐子

消防団とは

消防団の歴史は古く、江戸時代中期に町組織としての「火消組」を編成替えし、町火消「いろは48組」を設置したことが今日の消防団の前身であるといわれています。

猪名川町では、昭和14年4月に中谷村・六瀬村警防団が発足し、現在では31分団442人が活動しています。

仕事の内容は、平常時は消防車や関連機械器具などの点検、地区内の見回りなどを行っています。また、災害発生時には消火や救出活動を行います。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神のもと、団員はそれぞれの職業に就きながら、地域を守るために精一杯努力しています。

【出初式】

▲観閲行進

出初式とは、消防本部・消防団などの消防関係者が勢ぞろいし、消防演習を行う行事となっています。

猪名川町では、1月9日（日）に文化体育館・総合公園などで「平成23年消防出初式」が実施されました。当日は2部構成の式典で、1部では町長式辞、表彰伝達や表彰状授与があり、アトラクションとして猪名川保育園幼年消防クラブのなかよし太鼓の演技がありました。

2部は屋外で、消防団員や消防車両による観閲行進、消防職員による消防演技、そして消防団員による一斉放水などが行われました。

寒空の中、一斉放水が行われた後には、きれいな虹がかかりました。

鎌倉分団

分団長
渡瀬　博文さん

鎌倉地区内には、消防署北出張所があり、消防車の出動がサイレン音で団員にすぐわかります。また、地域住民から、消防車が出たと連絡が入ることもあります。消防署の依頼を待たずこちらから出動を申し出、依頼されればポンプ車を出し、残りの団員に電話しつつ現場に走るなど出動を迅速に行うことを心がけています。

消防署北出張所にいろいろ相談できるのも強みです。鎌倉地区内には山あいにお寺やお宮があり、山火事発生時にはこれら文化財の焼失を防ぐ対応も必要です。いざ火事の時に消火用の水をふもとから山あいまで確実に上げるのが難しいのですが、消防署北出張所から水圧調整などの助言も得て、自治会立会いのもとでばっちり訓練しており、万全です。

先輩団員からも災害現場の怖い話を聞き、自分の体験も進んで話すなど、団員間の情報交換を積極的に心がけています。火事を防ぐにはちょっとした意識がいかに大切か痛感します。

▲放水訓練

地域にも防災に役立つ情報を広め、みんなで助け合ってふるさとを大切にしていきたいです。

団長さんにインタビュー！

消防団は、団員の地域愛護とボランティア精神で支えられています。団員は各々仕事を持ちながらよくやってくれており、頭が下がる思いです。

消防団長
福田　康司さん

しかし、最近では町外で就職するなど、なかなか緊急時にすぐ集まれる人員の確保が困難になっています。そこで、平成24年までに現在の442人定数を実働できる407人にまで削減する予定です。人員削減の影響が出ないよう実践的な訓練を積極的に行い、地域の安全・安心を守るよう努めたいと思います。

万善分団

分団長
畑中　祥宏さん

最近では、他分団と共同での出動実績があります。

昨年は近隣で住宅火災が発生し、夜中に出動しました。現場は消火作業で水蒸気が猛烈に吹き上がり、何も見えず恐ろしいです。火災のあった地区の分団は消火翌日も残り火の点検・後片付け作業をします。

▲年末特別警戒

一昨年の銀山の山火事ではゴールデンウイークに3日間活動しました。20キロの水タンクを背負って道なき山を登り、水をまいて歩きます。重労働です。

活動は火事に限りません。山で迷子など、行方不明者の捜索も経験しました。不審者や不審火が多発した年は、年末特別警戒で巡回回数を増やしました。

小さな地区のよさで、分団員を含め住民が互いをきっちり把握できているので、地区内で何かあっても機敏に対応できます。また、今年5月末までに住宅用火災警報器の設置が義務付けられ、普段の活動と合わせて地域の設置状況を見守りながら、警報機設置に取り組みたいと思います。

▲格納庫の設置作業

後編記集

各地域の消防団員たちが小型ポンプ積載車を乗り付け出初式に勢揃いし、今年も活躍を誓う光景は、華やかでかっこよく、壮観です。

しかし、活動内容は生易しくありません。祖父や父から続く使命感や、地域への愛情で活躍されています。

阪神淡路大震災でも人のつながりや助けあいが最も有効でした。消防団のスタイルには昔ながらのよさがたくさんあります。単なる災害対応だけでなく、人が生きていく中で大切なものを、今までもこれからも守り続ける人たちです。

【いながわ特派員】

R100 PRINTED WITH SOY INK 本紙は古紙配合率100%の紙に、植物性大豆油インキで印刷しています。11,100部作成し、1部当たりの単価は28.9円です。